

松江市「自分ごと化会議in松江」実行委員会

自分ごと化会議in松江 自然エネルギーってどげかね？

活動目的

自分のまちの課題を安心して自由に議論する場が少ないため、他人事になっている事が多い。まちの問題を「自分ごと」として考える市民を増やすため、無作為に選ばれた市民による住民協議会を開催し、自然エネルギーの可能性や課題を議論し、提案書としてまとめ、行政や関連企業に提出するとともに報告会を開催し、成果を共有する。



活動内容

「自然エネルギー」をテーマに、有権者名簿から無作為抽出された市民19人（プラス島根大生5人）が、河野太郎・行革担当大臣（当時）、資源エネルギー庁、松江市役所、電力の地産地消をしている事業者（ローカルエナジー）などの話を聞き、自由に議論した。議論の結果は、「自然エネルギーのメリット、デメリットを市民全体で共有する」など5つの提案にまとめ、松江市長、知事、資源エネルギー庁、中国電力、ローカルエナジーへ提出した。



成果

市民向け報告会では、参加者から「今までは一方的な情報を知るのみだったが、この会議に参加し『知る』と『分かる』の違いを発見できた。」などの感想が出された。松江市長へ提案書を手渡した際には、提案の「松江らしい自然エネルギー」に関連し、水辺で「自然エネルギー」のお祭りをできないか？などの発案もあった。その後、さらに学生参加者で議論を続け、「学生“自分ごと”宣言～自然エネルギーを題材に～」を作成している。



大田市 長久竹の子族

長久町内の竹林整備による里山作り

活動目的

耕作放棄によって放置された竹林が増え、通学路等の障害になっている。竹林の整備を進め、竹資源の有効活用を考えるために講演会や竹細工ワークショップを実施し、筍・メンマ等の商品化を目指し、継続的な竹資源の活用を進める。



活動内容

稲用地区の立枯れ竹を春と秋に5回伐採したところ、光が差し込み、鳥獣の住処も解消し、ゴミ捨て場になっていた竹藪はすがすがしい景観に改善した。整備した竹材を利用する竹細工教室で竹灯籠などを作成し、桜祭りを柔らかな灯りでライトアップすることができた。また、先進的な竹の活用に取り組む大屋手作り工場の活動を学び、竹パウダー肥料やメンマ作りなど、竹を地域資源とする活用に取り組んだ。

成果

竹林整備で伐採した竹の有効活用として、実験的に取り組んだ竹肥料やメンマの評判は口コミで広がり、多くの方の好評を得ることができた。これまでやっかいとされた竹を地域の資源として活用することができ、この取り組みをきっかけとした高齢者の活動参加や交流が生まれるなど、地域を活性化することもできた。



安来市 SAN-IN (さんいん) やすぎオオサンショウウオの会

安来発オオサンショウウオ個体登録推進活動

活動目的

国指定特別天然記念物であるオオサンショウウオの保護管理・生息環境保全対策上必要な基礎資料を整備する。



活動内容

- ①生息調査・観察会（兼 個体登録技術講習会）の開催
- ②フィールド調査区間における河道内の草刈及び不法投棄物回収等による生息環境保全の実行
- ③人工巣穴堆積土砂除去による生息環境改善の取組
- ④新聞、市報、CATVにおける活動紹介や小学校の遠足行事受入を通じた普及啓発活動



成果

- ・令和3年度におけるマイクロチップを用いた新規標識個体数は27頭。
- ・安来市広瀬町西谷において生態系保全排水路を一部改造し、「横釜奥谷川オオサンショウウオ営巣地」として整備した。このうち、河川に設置された人工巣穴へのバルブ付き導水管敷設は全国初！！
- ・非生息地において緊急保護された個体（計2頭）に対して個体識別措置および移転放流を実施。移転放流に際しては市教委文化財担当者同意のもと、生態系や遺伝子の攪乱回避に配慮した。

松江市 ミホツ姫命稲穂の会

美保関で遊ぼう！ ～地域の自然環境から学ぶ体験教室～

活動目的

美保関町で自然とふれあう観察会を実施すると多くの参加者は集まるが、生息している生き物等の知識は乏しく、豊かな自然の魅力を知らない。海や山でのさまざまな体験や学びをとおして健全な森林づくりやきれいな海づくりの意識を醸成し、美保関の保全に取り組む。



活動内容

- ①「観察会」子どもたちの活動拠点のみどり山で樹木と生き物の観察会を行った。それぞれの活動が連続したプログラムであることを感じてもらうために、②で使用する植物を中心に観察し、気づきや疑問を導いた。生き物観察では、ヤマアカガエルを含め3種類の生物を確認することができた。
- ②「紙漉き体験会」2種類の樹木を素材にした紙漉きで、だんだん変化する色の様子を見ていると薄茶色の和紙ができ上がり、子供たちは驚いた様子だった。「次はどんな組み合わせにすると素敵な色の和紙ができるかな」と、次回開催を心待ちにする声もあった。
- ③「お気に入り樹木を探そう、馬着山の探索」講師の解説を聞きながら3キロの道のりを歩き、落ち葉や樹木を調べたり、葉っぱを使ったゲームもして自然遊びの楽しさを体験した。



成果

環境に着目した活動を継続すると、地域で活動の賛同者や協力者が増えた。他の団体も活動を始めると地域全体で環境保全の気運が高まり、団体同士で連携する体制もできた。活動に参加した子どもたちは、学校でも自然への興味を示していることを先生から聞き、当団体の励みになっている。

地域の川をもっと知ろう、地域の川でもっと遊ぼう！！

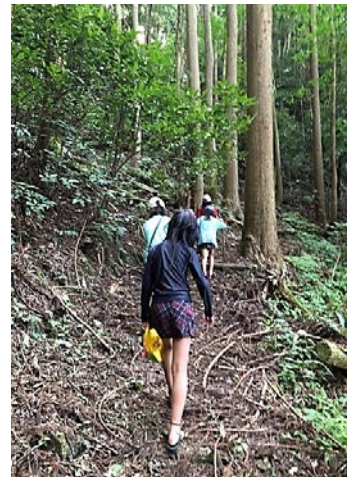
活動目的

川の流れを止めている土砂や草を除去し、子どもたちが安全に川遊びの体験や生き物観察など地域の川で学び、親しめる場所ができるように整備する。また、その川とつながる森の豊富な資源や昔ながらの暮らしを学ぶことで、自分たちの暮らしを見つめ直すきっかけとする。



活動内容

川での時間は、釣りを楽しむ子や飛び込みをする子、またウナギの仕掛けを一生懸命手作りしたが捕れずに悔しがる子など様々だった。川から森のつながりを感じながら歩けるように整備した遊歩道を進み森に入ると、溪流のせせらぎや風の音、虫の声など絶え間なく響く森の音に驚いていた。初めて薪を割り、火をおこして沸かしたドラム缶風呂の体験など、山と川の自然に親しみ、自然とのつながりを考える時間となった。



成果

活動後の保護者からのアンケートでは「帰ってきた日は子供の話が止まらず、楽しかったことが伝わってきた」「あんなに水のきれいな高津川で色んな自然体験ができたことは、子どもにとって大きな糧になると思う」など、地域の豊かな自然を再認識できる場となり、地域の自然環境を保全する意識を高めることができた。

